

シンポジウムの目的と主旨説明

光学赤外線天文連絡会
運営委員会 川端弘治(委員長)
松原英雄、宮田隆志
青木和光、佐藤文衛
秋山正幸、伊藤洋一、栗田光樹夫

背景

SPICA — 長らく日本のスペース光赤外のフラッグシップ

2013-2014年夏、国際協力の枠組みに大幅な変化

→ 打ち上げ時期の遅れ、観測装置仕様の変更

光学赤外天文連絡会／コミュニティの取り組み

2008年にSPICA TF設置(2014年10月新生TFへ移行)

2013年6月SPICA推進の声明、2013年9月将来計画検討書改訂へ

→ SPICAに求める科学成果の再評価の必要性

～今後15-20年のスペース光赤外天文学の発展を見据えて

宇宙研：戦略的中型の募集／宇宙科学のロードマップ策定

今年度の戦略的中型の公募に、光赤外からWISHが応募を表明

～SPICA, WISH, 小型プロジェクト／海外... 実現性の現実的な見通しは？

所属分野の目標・戦略・工程表の提出の要求(2015年初頭締切)

→ 戦略的中型、小規模プロジェクト選定の必須条件 待ったなし

司会: SPICAの実現は早くて2028年、その前に何もなしでも良いか?

C: WISHを提案することはSPICAをやらないという意思表示になる
SPICAの推進はISAS/JAXAの使命として進めてきた

C: ここでの議論というより、宇宙研内部がどう考えているのか、ではないか?

C: 光赤外コミュニティでの議論だと思う。(中略) SPICAの実現は非常に大きな責任を伴い、コミュニティとして選択と集中でみんなで行っていく議論が必要

C: 心配しているのは、SPICAの実現2028年までどうつなぐのか、ということ。
サイエンスの観点も、人的な観点も。その道を絶やさないという観点も重要。

C: SPICAの実現は実行部隊としての宇宙研で行って行くが、ユーザーがいないと意味が無い。やめた時に外から信頼されるのかという問題もある。

スペース計画の実現のためには、光赤外コミュニティ全体が深く関わった議論・推進が急務

9月シンポジウム後の光赤天連運営委周辺の動き

- 9月10日 光赤天連総会
状況報告 SPICA TF(STF)設置方針承認
- 9月26日 光赤天連運営委員会(TV)
STF立ち上げ、WISHの戦略的中型応募のインパクト、および現実的なスペースロードマップ構築へ向けた取り組みに関する議論
- 9月30日 仙台4者会談(川端、松原、山田、和田)
- 10月8日 光赤天連運営委員会(TV)
11月シンポジウムの獲得目標とそれに向けた取り組みに関する議論
- 10月22日 光赤天連運営委員会(TV)
11月シンポジウムのテーマ・プログラム・獲得目標。想定シナリオとアンケートに基づいた年次プロファイル試案作成方針、および光赤天連の役割に関する議論
- 10月30日 STFプレ会議(TV,skype)
- 11月18日 宇宙研:戦略的中型公募・ロードマップ作成に関する説明会
- 11月19日 STF第1回会議
- 11月25日 光赤天連運営委員会(TV)

本シンポジウムの目的

- SPICAの位置付け・科学的目標の再定義へ
 - Plan-A→Plan-B→Plan-D(打上遅延・口径小?)
 - 光赤外コミュニティが望むSPICAとは？
- スペース計画への光赤天連の対応の方向性
 - 宇宙科学・探査ロードマップとの整合性も考慮
 - SPICA以外の戦略的中型計画(＋小型計画、海外プロジェクト参加型)ミッションへの対応の方向性を見出す。

<< 獲得目標 >>

- SPICAの再定義へ向けた取り組み・方針について、コミュニティの了解を得る
- WISH→SPICA実現の流れを光赤天連として明に支持するのか？ 支持しないのか？
- (明に／暗に)継続課題として持ち越すのか？
- 今回が難しければ、問題点は何か、こういった行程でいつまでに結論を出すべきか、を共通認識として得ておく



光赤天連の役割 今回の裏テーマ～このままで良いのか？～

これまで「小さな政府」的な役割だった

- ✓ プロジェクトの評価・選定は、それぞれの基盤機関に完全に委ね、立ち入ることはしない
- ✓ 光赤天連は、求められればサポートを検討するものの(シンポジウムや総会での議論、声明)、原則評価や順位付けはしない

しかし、それでは立ち行かなくなってきたようだ

- ✓ 宇宙基本計画「一定規模の資金」の有効活用→ 戦略性が必須
宇宙研からのコミュニティへの工程表提出指示は事実上の権限付与を意味
- ✓ 地上の計画も大型化・多様化(専門化)が進んでいる
他分野の研究者から見えづらく、コミュニティ全体の評価が下がり、共倒れしかねない
- ✓ 光赤天連で個々のプロジェクトについて積極的に議論し整理することが求められる時代に？

プログラム

10:00 シンポジウムの目的と主旨説明(川端)

10:20 SPICAの状況説明・目指すサイエンス(芝井)

10:55 サイエンス検討中間報告(長尾)

11:30 全体質疑

議論テーマ2.の材料提供

・宇宙研が考えるスペース科学の現実

・SPICA/WISH推進体制アンケートの紹介、等

13:00 議論

1. SPICAの科学的価値のレビューに向けて

- 口径2.5m/2mの場合にどのようなSPICAであるべきかを検討するための手順や要検討課題(光赤天連SPICAタスクフォース)

2. スペース計画に対する光赤天連としての対応案

- 宇宙科学・探査ロードマップの考え方、及び、宇宙科学プロジェクトの選定審査プロセスからプロジェクトの進め方について(上野)
- WISHの戦略的中型応募に関して(山田)
- 想定シナリオと年次プロフィール案(川端)

3. その他

17:00頃 閉会予定



予備

Naoj-guest

Guest-1411-4511

7046-9690

SPICA推進とWISHの戦略的中型応募

- 光赤外将来計画検討書(2005年刊)
- 学術会議(天文学・宇宙物理学の展望と長期計画2010年3月、大型計画に関するマスタープラン)
- 光赤天連声明(2013年6月)

あかり以降、SPICAは常にスペース計画の中心

- JAXAの大方針の見直し: 宇宙基本計画
 - 戦略的中型計画(300億クラス ~15年で4つ程度?)
光赤外、X線、電波、太陽、惑星探査、... でのしぎを削らないと
- 年度内の戦略的中型公募
 - WISHが応募することを表明。光赤外コミュニティの総意は？

SPICAを推進してきた光赤天連として看過する訳にはいかない